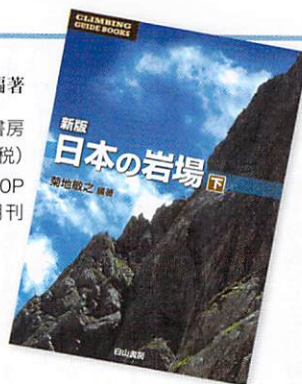


新版 日本の岩場 下



菊地 敏之 編著  
白山書房  
¥2,000 (+税)  
A5判 並製 160P  
2016年4月刊

## ロッククライミングの文化を伝えるための資料

カメラさんの新しい「日本の岩場(上)」が出てから1年、この4月に下巻が出る。下巻は穂高・滝谷・錫杖・黒部・剣など北アルプス編で2015年までの最新ルート集だ。

これで、古い本を探したりネットで検索しなくても、最新の各エリア・ルートの情報がいつでも手元においておけるようになった。最近開拓さ

## 閉鎖なんてもつたない!

日本一高いところにある測候所、気象庁が閉鎖した後、も研究者たちのグループが研究活動を続けている。

閉鎖からNPO法人の設立までを、第1部「生まれ変わる富士山測候所」で、歴史的なエピソードも加えて記す。研究者たちの慣れない官庁との交渉、お役所の縦割り行政と省庁間の壁に翻弄されて……、しかし、閉鎖の方針は覆

れたルートや人気のルートが追加されているだけでなく、あまり人が行かなくなったエリアやルートも取り上げて(と巻頭に書いてある)あるので、皆様、ルートを拓いた先人の方々に敬意をこめて、最新技術と道具を駆使して攀じらせてもらい、「クライミング文化」を継承してください。在庫のあるうちに上下巻どうぞ!(本誌/水野奈保美)

(二火会/波多野愛子)

## あらかると

### 歩く鳥 石井 光造



蛇がいないため、鳥の天国といわれるニュージーランド。行った時の写真を整理していると、撮るのが難しい鳥の写真が多いのに驚いた。人を恐れずに鳥たちが寄ってくるので、素人でも近づいて撮影できる。

鳥の名を調べてみると、国鳥というキウイをはじめ、マウリ語でカカポというフクロウオウム、タカヘ、ウエカというニュージーランドクイナ(右写真)など飛べずに歩く鳥が多いことに気付いた。絶滅したというモアも巨大な歩く鳥で、世界で最も歩く鳥が多い国らしい。人間が住む以前、大型の哺乳類がいなかったのと、天敵がないため、翼が退化して、歩く鳥が増えたらしい。

マウリ語でキアーという、ミヤマオウムはニュージーランド南島でよく見かけた(左写真)。千以上の高山でひと息入れていると、興味が有りそうに寄ってくる。カラスより一回り大きいのが、可愛らしかった。普段は山にいるが、下に降りてゴミ箱の蓋を頭で開けてしまう、世界一、頭のいい鳥とも言われている。



よみがえる富士山測候所  
2005~2011

土器屋由紀子  
佐々木一哉 編著  
成山堂書店  
¥1,800 (+税)  
四六判 並製 180P  
2012年6月刊